

学校関係者評価報告書（2025 年度）

2026 年 6 月 10 日

京都文化医療専門学校

学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、京都文化医療専門学校
学校関係者評価委員会の結果を記したものである。

2026 年 6 月 10 日

校長 野口 智樹

自己点検・評価責任者 竹内 健二

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的
2. 学校関係者評価の基本方針
3. 学校関係者評価委員会 出席者
4. 学校関係者評価委員会 実施日時
5. 学校関係者評価方法

II. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標（重点取組）
2. 学校運営
3. 教育活動（重点取組）
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の受入れ募集（重点取組）
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献
11. 国際交流

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

自己点検・自己評価結果の客観性・透明性を高めると共に、学校関係者評価委員会の設置により継続的な連携協力体制を確保し、学校運営の更なる改善を図ることを目的とする。

2. 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

3. 学校関係者評価委員会 出席者

区 分	氏 名	所 属
業界関係者	孝本 乃子	歯科小児歯科乃子医院 院長
業界関係者	藤本 悠実	たけち歯科 勤務（実習指導者）
卒業生	明石 直子	本校 非常勤講師

※敬称略

4. 学校関係者評価委員会 実施日時

実施日時：2026年6月2日（火） 14:00～15:30

場 所：京都文化医療専門学校 会議室

5. 学校関係者評価方法

2025年度の自己点検・自己評価報告書に基づき、評価項目の結果および課題、改善方策について以下の視点から評価を行った。なお各評価は4段階に区分している。

①自己点検・自己評価結果が適切かどうか

②背景や課題への認識が適切かどうか

③改善方策としての取組みが適切かどうか

（適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1）

※自己点検・自己評価についても同様に4段階評価となる。

Ⅱ. 学校関係者評価結果

1. 教育理念・目標

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

社会が求める歯科衛生士の役割は口腔健康の維持・増進をはじめ、高齢化社会への対応や多職種連携など多岐にわたる。また歯科衛生士養成校の社会的責任としては、高度な専門知識・技術の習得、倫理観の育成、コミュニケーション能力の育成、生涯学習の促進、地域社会への貢献などをあげることができる。

また、地域においては各医療機関より歯科衛生士人材の不足が強く懸念されており、歯科衛生士養成校に対して人材供給力としての期待が高まっている。本校は、地域における歯科医師会や歯科衛生士会との連携の下で、各地域における歯科衛生士の人材供給を効果的に行うことが求められており、具体的に取組みを実行していかなければならない。

本校では、ステークホルダーの声を学校運営に反映させながら、付加価値の高い教育活動を通じて社会的責任を果たしていく。歯科衛生士は、患者それぞれのライフステージに対応できる歯・口腔の健康づくりの専門職として、歯科医療施設のみならず、地域の保健センター、保健所、保育所・幼稚園、学校、企業の健康管理室、そして、高齢者の居宅や介護保健施設、障害者等の社会福祉施設等、様々な施設において活躍することが期待されている。そのために本校では、1年次の基礎医学・歯科基礎科目、2年次の「臨地実習Ⅰ」、3年次の「臨地実習Ⅱ」「歯科口腔介護」「摂食・嚥下障害」など、段階的かつ体系的に学修できるカリキュラム編成を行っており、国家試験の合格はもちろんのこと、基本的知識や技術に加えて、医療従事者としての人間性や倫理観を備えた歯科衛生士を養成するためのカリキュラムの構築を目指す。

本校では教育上の特色として、基礎分野において「きもの」「茶道」「華道」「日本伝統文化」「礼儀作法」等の授業を行い、「日本人としての心」を学ぶための機会を多く取り入れ

ている。具体的には、1年次の「日本文化論Ⅰ・Ⅱ」「日本伝統文化論Ⅰ（茶道）」「日本伝統文化論Ⅱ（きもの学）」から、2年次の「日本伝統文化論Ⅲ」、3年次の「日本伝統文化論Ⅳ（茶道・華道）」まで、3年間を通じて段階的に伝統文化を体得できるよう体系化している。京都の伝統・文化・歴史を学ぶことを通じて「日本人としての心」を軸にして、ホスピタリティマインドを持ち、歯・口腔の健康づくりを通して、食べる力、生きる力をサポートできる歯科衛生士を目指している。このような教育的特色を活かしながら、臨床現場のニーズに応えられる、より付加価値の高い人材の育成を目指していく。

評 価 項 目	4段階評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	3
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 学生・保護者等に周知されているか	3
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

社会が求める歯科衛生士の役割は口腔健康の維持・増進をはじめ、高齢化社会への対応や多職種連携など多岐にわたる。また歯科衛生士養成校の社会的責任としては、高度な専門知識・技術の習得、倫理観の育成、コミュニケーション能力の育成、生涯学習の促進、地域社会への貢献などをあげることができる。

また、地域においては各医療機関より歯科衛生士人材の不足が強く懸念されており、歯科衛生士養成校に対して人材供給力としての期待が高まっている。本校は、地域における歯科医師会や歯科衛生士会との連携の下で、各地域における歯科衛生士の人材供給を効果的に行うことが求められており、具体的に取組みを実行していかなければならない。

本校では、本校を取巻くステークホルダーの方々の声に耳を傾け、その声を学校運営に反映させながら、より付加価値の高い教育活動を通じて社会的責任を果たしていきたいと考えている。そのために本校では、国家試験の合格はもちろんのこと、基本的知識や技術に加えて、医療従事者としての人間性や倫理観を備えた歯科衛生士を養成するためのカリキュラムの構築を目指す。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

2. 学校運営

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営方針や意思決定機能は、規則等において 明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は歯科衛生士養成校として社会の変化に対応した人材育成を行うことが求められているが、社会のニーズとのミスマッチや多様化する学生への対応、教職員の確保と資質の向上、学校施設の維持や更新など学校運営上の様々な課題を抱えている。

社会のニーズとのミスマッチについては、技術革新や産業構造の急速な変化に伴い医療業界に大きな変化が生じることが考えられる。また多様化する学生への対応については、学歴や経験、年齢、国籍など、多様な背景を持つ学生に対応することが難しくなりつつある現状がある。

このように社会の急速な変化の種をみつけ、それを認識し、素早く対応していくことが

求められており、付加価値の高い学校運営を行うことが課題となっている。

歯科衛生士養成校は、歯科医療技術の教育にとどまらず、地域社会のニーズに応え、口腔保健の向上に貢献できる人材を育成することが求められている。本校では、教職員の資質向上、地域社会との連携強化、学校運営の効率化を通じて社会の変化に対応し、付加価値の高い学校運営を実現していく。

現在、教職員間のコミュニケーションを図るために、グループウェアを活用し教職員のスケジュール管理やファイル共有を行い、情報の「見える化」「共有化」を図っている。特にマイクロソフト社の「TEAMS」等を活用し、学内会議や外部組織との打ち合わせに活用するなど、教職員や学生とのコミュニケーションを図るツールとしてより一層活用しているが、今後も、情報の一元化・共有化にも取り組み、業務の効率化・オンライン化も推進しながら、ペーパーレス化も加速させたい。

また学校運営の効率化については、AI ツールの活用についても検討していきたい。近年急速に開発が進む AI エンジン等のツールを企業経営に活用している事例を耳にするが、学校運営においても活用が可能であると理解している。さらには AI を教育現場に活用し、学生の学習意欲を高め、実践的なスキルを修得し、質の高い歯科衛生士を育成するための強力なツールとなりうる可能性を持っていることから、AI 活用についても検討が必要である。

評 価 項 目	4 段階評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
・運営方針や意思決定機能は、規則等において 明確化されているか、有効に機能しているか	3
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

本校は歯科衛生士養成校として社会の変化に対応した人材育成を行うことが求められているが、社会のニーズとのミスマッチや多様化する学生への対応、教職員の確保と資質の向上、学校施設の維持や更新など学校運営上の様々な課題を抱えている。

社会のニーズとのミスマッチについては、技術革新や産業構造の急速な変化に伴い医療業界に大きな変化が生じることが考えられる。また多様化する学生への対応については、学歴や経験、年齢、国籍など、多様な背景を持つ学生に対応することが難しくなりつつある現

状がある。

このように社会の急速な変化の種を見つけ、それを認識し、素早く対応していくことが求められており、付加価値の高い学校運営を行うことが課題となっている。

歯科衛生士養成校は、単に歯科医療技術を教えるだけでなく、地域社会のニーズに応え、口腔保健の向上に貢献できる歯科衛生士を養成することが求められている。そのため本校においては、教職員の資質の向上や学校と地域社会との連携強化、学校運営の効率化などを通じて社会の急速な変化に対応し、付加価値の高い学校運営を行うことが重要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

3. 教育活動（重点取組）

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校においては、社会のニーズの変化や歯科医療技術の進化・発展に伴い、様々な課題を抱えている。主な課題としては学生の実習環境の不足や、教職員の資質の確保、教育カリキュラムの多様性・柔軟性、就職支援の強化、学校運営の効率化など多岐にわたる。

また昨今では、学生の多様化が進んでおり、学生の学力や経験、価値観の多様化などに対応したきめ細かな指導スタイルの確立が必要となってきた。

このような環境下で、社会からの要請との間にかい離することなく、付加価値が高く、即戦力としての人材育成が本校の責務であると認識しているが、歯科衛生士として臨床の場において求められる資質を備えるために、臨床実習施設等と一層の連携を図りながら、充実した臨床実習等を行うことが大切であると認識している。

本校では、充実した教育活動を実践するため、教育環境の整備、教員の育成・サポート、学習支援の強化、カリキュラムの見直しを外部環境の変化に合わせて機動的に行っていく。そのためには本校を取り巻く様々なステークホルダーが抱えるニーズを把握する必要がある。実習施設・保護者・学生・地域社会・就職先施設等との連携を深め、意見交換の機会を積極的に設けている。学生アンケートを通じた授業評価の結果を効果的に反映できる評価・改善システムの確立に引き続き取り組んでいく。

実習施設には実習時において定期的に巡回しているが、このタイミングを上手く活用し、実習施設からのニーズを捉えるタイミングとして情報共有を図ることも大切だと認識している。本校歯科衛生学科は2024年度より専門実践教育訓練給付金制度の指定講座となり、2025年度も引き続きその取り組みを推進している。地域における歯科衛生士の人材不足が懸念される中、地域の歯科医師会や歯科衛生士会と連携しながら、社会人の学び直しやリスキリングのニーズに応える取り組みを継続している。滋賀県地区の地域歯科医師会とも協力し、歯科衛生士の養成・復職支援・リスキリング支援の具体策を検討・実施している。

評 価 項 目	4 段階評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校においては、社会のニーズの変化や歯科医療技術の進化・発展に伴い、様々な課題を抱えている。主な課題としては学生の実習環境の不足や、教職員の資質の確保、教育カリキュラムの多様性・柔軟性、就職支援の強化、学校運営の効率化など多岐にわたる。また昨今では、学生の多様化が進んでおり、学生の学力や経験、価値観の多様化などに対応したきめ細かな指導スタイルの確立が必要となってきた。

このような環境下で、社会からの要請との間にかい離することなく、付加価値が高く、即戦力としての人材育成が本校の責務であると認識しているが、歯科衛生士として臨床の場において求められる資質を備えるために、臨床実習施設等と一層の連携を図りながら、充実した臨床実習等を行うことが大切であると認識している。

本校ではより充実した教育活動を実践するため、教育環境の整備や教員の育成・サポート学習支援の強化、カリキュラムの見直しなど外部環境に合わせて機動的に見直していかなければならない。

そのためには本校を取り巻く様々なステークホルダーが抱えるニーズを把握する必要がある。実習施設や保護者、学生、地域社会、就職先施設等と連携を取りながら、ステークホルダーが抱えているニーズを把握するために、意見交換をする機会を設ける必要がある。例えば学生アンケートを実施し、授業内容や教授方法等について意見を聴衆する機会を設けているが、これらの評価結果を効果的に取り入れていけるような評価・改善システムの確立が必要である。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

4. 学修成果

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	2
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

国家資格取得については、本校独自のカリキュラムにより個別対応を軸とした試験対策を行い、合格に結びつけるようにしているが、個々の学生間において学力や理解の程度に幅があることから、より一層の工夫と対策が必要であると認識している。

退学率については、本年度も引き続き昨年度と比較すると継続的に改善しているが、今後も良い状態が維持できるように継続的な取り組みが大切である。学生一人ひとりに考慮した対応が必要となる。

就職については、歯科衛生士の求人状況が活況であることから、就職希望者の就職状況は良好であると言える。今後は、卒業生の求人・就職ニーズについても情報を収集する仕組みを作り、歯科医療業界における歯科衛生士の求人ニーズに対応していくことが求められている。

国家試験対策については、国家試験対策科目の強化や過去問演習の徹底、模擬試験の実施、臨床実習との連携など、さまざまな取組みを複合的に行うことで、合格率の維持・向上に努めたい。また就職指導は3年生後期に行われることから、臨床実習や国家試験対策等と時期が重なり、就職指導に必要な時間の確保が困難となる可能性がある。3年間の就職活動サポート計画を示し、学生自身の就職に対する意識を高め、早い時期から主体的に行動する意識を持たせるようにカリキュラム編成を行うことが必要である。

本校歯科衛生学科では、3年次に「キャリアデザイン」の授業を設けて、社会で求められている仕事の心構えや責任感等を理解し、歯科衛生士として働くことの意義や態度について考え、学ぶ機会を作っている。また同じく3年次の「グローバルコミュニケーション」の授業においては、海外や日本の伝統文化を理解しながら、感受性を磨き、多様な思考方法を身に付け、社会の要請に応えられる歯科医療人材の育成を目指している。さらに「人間理解とカウンセリング」の授業を通じて、患者との信頼関係構築に必要なコミュニケーション能力を体系的に学修できる仕組みを整えている。

評 価 項 目	4段階評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	2
・退学率の低減が図られているか	4
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

国家資格取得については、本校独自のカリキュラムにより個別対応を軸とした試験対策を行い、合格に結びつけるようにしているが、個々の学生間において学力や理解の程度に幅があることから、より一層の工夫と対策が必要であると認識している。

退学率については、本年度も引き続き昨年度と比較すると継続的に改善しているが、今後も良い状態が維持できるように継続的な取り組みが大切である。学生一人ひとりに考慮した対応が必要となる。

就職については、歯科衛生士の求人状況が活況であることから、就職希望者の就職状況は良好であると言える。今後は、卒業生の求人・就職ニーズについても情報を収集する仕組みを作り、歯科医療業界における歯科衛生士の求人ニーズに対応していくことが求められている。

国家試験対策については、国家試験対策科目の強化や過去問演習の徹底、模擬試験の実施、臨床実習との連携など、さまざまな取組みを複合的に行うことで、合格率の維持・向上に努めたい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

5. 学生支援

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3

・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

学生支援には、①学習面 ②進路選択（就職、進学） ③経済面 ④メンタルヘルス 等の側面があると認識しており、それぞれにおいて対応できるように教職員間の情報共有を図りながら支援を行っている。ここ数年来、経済的側面に関する相談が増加しており、奨学金や教育ローン等の紹介や説明等を行っているところであるが、経済的な側面のみならず、同時に生活・学習面においても支援が必要なことがあることが多い。学生の声に耳を傾けながら、教職員間において情報共有を密に図り、適宜適切な支援が行えるよう、十分な支援体制をより一層構築する必要がある。

①学習面 ②進路選択（就職、進学） ③経済面 ④メンタルヘルス 等の側面において学生支援を行うためには教職員間の情報共有を図り、学生に必要な支援ニーズを的確に捉え、対応していくことが求められる。多様な学生のニーズに耳を傾けつつ、個別に対応できるように支援策を具体的に検討していく。経済的なサポートについては、2024 年度より歯科衛生学科が専門実践教育訓練給付金の指定講座となり、2025 年度も継続して多くの学生がこの制度を活用している。引き続き社会人学生の経済的ニーズに合致した広報展開を積極的に行い、対象学生のさらなる拡大を目指す。また、修学支援新制度については 2025 年度より多子世帯を対象とした満額の支援を含めた授業料減免が実施されており、学生や保護者への丁寧な説明と周知を継続して行っている。

本校では、教育方針に「Learning Together, Thinking Together」を掲げ、学生と教職員が共に学び、共に考える教育を実践し、学生支援においても、学生と教職員が一緒に支援の方向性を導き出していけるような体制の構築が大切であると認識している。なお、本校の正規カリキュラムには、1 年次の「初めて学ぶ心理学」、3 年次の「人間理解とカウンセリング」を配置しており、学生自身が患者支援の場面で必要な心理的理解や対人援助の素養を学修する機会も確保している。2020 年 4 月からは国の修学支援新制度の対象となっており、2025 年度は 47 名の学生が給付奨学金及び授業料等減免の対象者として支援を受けた。

評 価 項 目	4 段階評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3

・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

学生支援には、①学習面 ②進路選択（就職、進学） ③経済面 ④メンタルヘルス 等の側面があると認識しており、それぞれにおいて対応できるように教職員間の情報共有を図りながら支援を行っている。ここ数年来、経済的側面に関する相談が増加しており、奨学金や教育ローン等の紹介や説明等を行っているところであるが、経済的な側面のみならず、同時に生活・学習面においても支援が必要なことがあることが多い。学生の声に耳を傾けながら、教職員間において情報共有を密に図り、適宜適切な支援が行えるよう、十分な支援体制をより一層構築する必要がある。

そのために現在、教職員間のコミュニケーションを図るために各種会議体や研修等を行っているが、今後はより情報共有の密度を高めるために、定時性の高い仕組みを取り入れることが重要である。

経済的なサポートについては、2024 年度より歯科衛生学科が専門実践教育訓練給付金の指定講座となっており、すでに学生がこの制度により学んでいる。これにより次年度も引き続き社会人学生の経済的ニーズに合致した広報展開を行うことが可能となっており、対象学生の拡大を目指したい。

また、修学支援新制度については2025 年度より多子世帯を対象とした満額の支援を含めた授業料減免の実施が予定されているが、制度固有の分かりにくさが根底にあるため、学生や保護者への周知が思うように進んでいない。本校としても可能な限り学生や保護者に分かりやすく説明を行い、周知を図りたい。

（学校関係者評価委員会における評価）

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

・在校生と卒業生をつなげる取組みや、学生の卒業後の活動をサポートするような取組みを検討してみてはどうか。例えば「同窓会」活動を活発化し、卒業生だけでなく在校生も参加できれば、在校生と卒業生の「タテとヨコ」のつながりも期待できる。

6. 教育環境

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について 十分な教育体制を整備しているか	4
・防災に対する体制は整備されているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

歯科衛生士養成校における教育環境の改善に向けた取組みは、非常に重要であると同時に、多様な課題を抱えている。具体的には、教職員の人材の確保、カリキュラムの見直し、実習環境の整備、学生のモチベーションの維持など多岐にわたる。教育環境を改善するためには、それを実践する専門性の高い教職員の確保が必要となり、これがカリキュラムの見直しや学生のモチベーションの維持につながり、学生と実際に接する教職員においてはやはり専門性が求められることになる。専門性の高い教職員の確保は特に喫緊の課題となる。

専門性の高い教職員を確保するために定期的に教職員研修を実施し、最新の歯科医療技術の獲得や多岐にわたる運営上の課題に対応できるような人材の育成に努めることが大切であると認識している。教育環境の改善は一朝一夕にできるものではない。教職員や学生、地域社会等と連携しながら継続的な取組みを進めていかなければならない。

評 価 項 目	4段階評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について 十分な教育体制を整備しているか	4

・防災に対する体制は整備されているか	3
--------------------	---

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

歯科衛生士養成校における教育環境の改善に向けた取組みは、非常に重要であると同時に、多様な課題を抱えている。具体的には、教職員の人材の確保、カリキュラムの見直し、実習環境の整備、学生のモチベーションの維持など多岐にわたる。教育環境を改善するためには、それを実践する専門性の高い教職員の確保が必要となり、これがカリキュラムの見直しや学生のモチベーションの維持につながり、学生と実際に接する教職員においてはやはり専門性が求められることになる。専門性の高い教職員の確保は特に喫緊の課題となる

専門性の高い教職員を確保するために定期的に教職員研修を実施し、最新の歯科医療技術の獲得や多岐にわたる運営上の課題に対応できるような人材の育成に努めることが大切であると認識している。教育環境の改善は一朝一夕にできるものではない。教職員や学生、地域社会等と連携しながら継続的な取組みを進めていかなければならない。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

7. 学生の受入れ募集 (重点取組)

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	4

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校における広報活動は、本校の魅力を伝え、多くの学生を引き付けるうえで大切な取組みとなります。しかし、近年では少子化の進展や進学・就職における多様な選択肢の増加など、様々な要因から広報活動を取巻く環境が変化しており、新たな課題が生じている。具体的には、競合校との差別化や情報収集の難しさ、少子化の進展、SNS 活用の難しさ、コロナ禍の影響による歯科衛生士の職業イメージの変化など、広報活動を取巻く時代の変化は多様化している。

本校における広報活動については、競合校との差別化を図るためにもより一層多様化しなければならないと認識している。オープンキャンパスについては体験型のイベントを増やし、リピーター向けにより充実したカリキュラムとする。情報発信については、様々な SNS、情報媒体等が存在するが、潜在的な入学者の獲得のためには情報の接触機会を高める取組みが必要である。少子化の進展とあいまって、個別対応の強化も必要となるため、個別相談会の実施時間の拡大を図り、夕方の時間帯に対応し、社会人ニーズへの対応を図りたい。

評 価 項 目	4 段階評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか	3
・学納金は妥当なものとなっているか	4

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

歯科衛生士養成校における広報活動は、本校の魅力を伝え、多くの学生を引き付けるうえで大切な取組みとなります。しかし、近年では少子化の進展や進学・就職における多様な選択肢の増加など、様々な要因から広報活動を取巻く環境が変化しており、新たな課題が生じている。具体的には、競合校との差別化や情報収集の難しさ、少子化の進展、SNS 活用の難しさ、コロナ禍の影響による歯科衛生士の職業イメージの変化など、広報活動を取巻く時代の変化は多様化している。

本校における広報活動については、競合校との差別化を図るためにもより一層多様化しなければならないと認識している。

オープンキャンパスについては体験型のイベントを増やし、リピーター向けにより充実したカリキュラムとする。

情報発信については、様々な SNS、情報媒体等が存在するが、潜在的な入学者の獲得のためには情報の接触機会を高める取組みが必要である。少子化の進展とあいまって、個別対応の強化も必要となるため、個別相談会の実施時間の拡大を図り、夕方の時間帯に対応し、社

会人ニーズへの対応を図りたい。

（学校関係者評価委員会における評価）

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	3
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

（学校関係者評価委員からのご意見）

・学生がその学校に入学を決めるポイントは、「この人（先生や先輩）が良いと思った」が動機になることが多いと思う。そこを広報活動で進めていくことが大切だと思う。

・本校の在校生や卒業生が、これから進学を決めていく人たちに、本校を勧めてもらえるような学校づくりが大切だと思う。

・本校の特徴としての文化の授業（日本伝統文化論、茶道、華道、着物など）の様子を発信するのも大切だが、あわせて国家試験対策の授業や指導の様子を伝えることも大切だと思う。

・先生と学生の距離が近いこともアピールすべきだと思う。本校の教育理念「Learning together, thinking together」を現すことにつながる。

8. 財務

（自己点検・自己評価における評価）

評 価 項 目	4 段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制準備はできているか	3

（自己点検・自己評価における課題認識や改善方策）

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。しかし、学校法人を取り巻く環境の変化や会計の厳格化を背景として、学校法人の経営状態を社会に対してより正確に、分かりやすくすること、そして適切な学校経営の判断に役立つものとするのが大切であ

るとの認識を持っている。

充実した教育活動を永続的に推進する使命を持つ学校法人は、それを実現するために健全な財務基盤の確立が求められている。このためには、本校及び法人運営においては常に学園の財務状況を把握し、健全性を保つために努力することが不可欠である。学校法人は公共性、公益性が高く、その使命と役割から考えると、大きな社会的責任を有している。社会的責任を果たすためには、全教職員が、経営・財務的な側面についても理解を深め、一人ひとりが自覚を持って日々の職務に邁進できるような環境を保つことが大切であると考えている。

学校法人は公共性、公益性の観点から、学校経営の健全性を高め、永続的に教育活動を行うことが求められている。本校は、財務基盤の安定性を通じて、教育の充実及び向上を図り、その社会的責任を果たすべく学校運営を行っていきたいと考えている。

評 価 項 目	4 段階評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制準備はできているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定している。しかし、学校法人を取り巻く環境の変化や会計の厳格化を背景として、学校法人の経営状態を社会に対してより正確に、分かりやすくすること、そして適切な学校経営の判断に役立つものとするのが大切であるとの認識を持っている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

9. 法令等の遵守

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4 段階評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・ 自己評価結果を公開しているか	4

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校では、専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領等の法令や基準等に基づき学校運営を行っている。また個人情報については、個人情報の保護に関する法律の趣旨や目的を鑑み、個人情報の適正かつ効果的な活用等をもって、本校を取り巻く利害関係者の安心・安全を確保することにつなげていきたいと考えている。継続的に自己点検・自己評価の実施を行っており、2019 年度からは学校関係者評価も実施しているが、利害関係者と緊密な連携を保ち、社会への説明責任の遂行や教育の質の保証、向上と社会からの信頼の獲得につなげていくことが大切であると認識している。

近年、情報通信技術（ICT）の進展に伴い、様々な情報をデジタルデータとして収集・蓄積・管理・加工・編集し、ネットワークや記憶メディアを通じてやり取りすることが容易になっている。個人に関する情報も、インターネットやスマートフォン等を通じてやり取りされる機会が増加しており、これらを扱う本校にとっても、個人のプライバシーや個人情報の保護が重要な課題となっていることから、個人情報保護の取り組みをより強固なものとするために、学校運営の仕組みを構築し、同時に全教職員が個人情報保護に対する認識をより向上させるための教育が重要であるとの認識を持っている。

本校では、学校に設置されているパソコン端末の Web アクセスを一元管理し、証跡を追える Web プロキシのログを取得することで、Web セキュリティー対策を実施している。さらに各パソコン端末の Web アクセスを制御することで、出口対策を行い不用意に組織内部の情報が外部に晒されることがないように仕組みを構築し、個人情報の保護に必要な対策を講じている。

評 価 項 目	4 段階評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3

・自己評価結果を公開しているか	4
-----------------	---

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校では、専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領等の法令や基準等に基づき学校運営を行っている。また個人情報については、個人情報の保護に関する法律の趣旨や目的を鑑み、個人情報の適正かつ効果的な活用等をもって、本校を取り巻く利害関係者の安心・安全を確保することにつなげていきたいと考えている。

また近年、情報通信技術（ICT）の進展に伴い、様々な情報をデジタルデータとして収集・蓄積・管理・加工・編集し、ネットワークや記憶メディアを通じてやり取りすることが容易になっている。個人に関する情報も、インターネットやスマートフォン等を通じてやり取りされる機会が増加しており、これらを扱う本校にとっても、個人のプライバシーや個人情報の保護が重要な課題となっていることから、個人情報保護の取り組みをより強固なものとするために、学校運営の仕組みを構築し、同時に全教職員が個人情報保護に対する認識をより向上させるための教育が重要であるとの認識を持っている。

本校では、学校に設置されているパソコン端末の Web アクセスを一元管理し、証跡を追える Web プロキシのログを取得することで、Web セキュリティー対策を実施している。さらに各パソコン端末の Web アクセスを制御することで、出口対策を行い不用意に組織内部の情報が外部に晒されることがないように仕組みを構築し、個人情報の保護に必要な対策を講じている。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4 段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	4
②背景や課題への認識が適切かどうか	4
③改善方策としての取り組みが適切かどうか	4

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

10. 社会貢献・地域貢献

(自己点検・自己評価における評価)

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む） の受託等を積極的に実施しているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は地域医療の人材を育成する教育機関であり、社会貢献や地域貢献、ボランティア活動等の取り組みを積極的に実施すべきであると認識している。教育面においては、歯科医療現場のみならず、地域の保健センターや高齢者向け施設等における歯科保健指導の取り組みに参加する等、地域とのつながりを重視した教育を推進している。

学生のボランティア活動については、学生が積極的に参加できるように情報提供を行うとともに、側面的な支援を実施したい。

本校歯科衛生学科では、1年次において「国際医療とボランティア」の授業を設けて、ボランティア精神について理解を深め、ボランティア活動を担える資質を、早い時期から身に付けることを目標としている。また3年次の「歯科口腔介護」「介護技術論」「摂食・嚥下障害」「社会福祉概論」では、超高齢社会における地域の高齢者・要介護者への口腔ケアに対応できる実践力を養い、地域包括ケアの一翼を担える歯科衛生士の育成を推進している。医療人として、欠かすことが出来ないボランティア精神やその実践能力を身に付け、社会貢献の意識を一層高める教育を推進している。

評価項目	4段階評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む） の受託等を積極的に実施しているか	3

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

本校は地域医療の人材を育成する教育機関であり、社会貢献や地域貢献、ボランティア活動等の取り組みを積極的に実施すべきであると認識している。

学生のボランティア活動については、学生が積極的に参加できるように情報提供を行うとともに、側面的な支援を実施したい。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

1 1 . 国際交流

(自己点検・自己評価における評価)

評 価 項 目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

医療分野において留学生等の外国人人材等の受入れについては、「質と技術の担保等の医療専門職に特有の観点」が存在すると認識している。

留学生の受入れを実施した場合、留学生に適切な教育環境を提供することが求められる。また、留学生が資格取得後に引き続き国内で活躍できるような環境を確保するために、様々な環境整備が必要となる。このような環境整備には本校のみならず、行政機関、業界団体、地域社会、消費者等の利害関係者による検討や制度設計等が必要であると認識している。

医療（歯科衛生）分野における留学生の受入れについては、医療技術や日本語要件等の

質の担保等の医療専門職に特有の観点を踏まえつつ、利害関係者等との検討が必要である。

評 価 項 目	4段階評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	2
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	

(自己点検・自己評価における課題認識や改善方策)

留学生の受入れを実施した場合、留学生に適切な教育環境を提供することが求められる。また、留学生が資格取得後に引き続き国内で活躍できるような環境を確保するために、様々な環境整備が必要となる。このような環境整備には本校のみならず、行政機関、業界団体、地域社会、消費者等の利害関係者による検討や制度設計等が必要であると認識している。

(学校関係者評価委員会における評価)

評 価 視 点	4段階評価
①自己点検・自己評価結果が適切かどうか	3
②背景や課題への認識が適切かどうか	2
③改善方策としての取組みが適切かどうか	3

(学校関係者評価委員会からのご意見)

特筆すべきコメントはありません。

以上